

鉄道一般

車両

施設

電気

運転・輸送

防災

環境

人間科学

浮上式鉄道

IEC/TC 9 総会開催を 経験して

IEC (国際電気標準会議) /TC 9 (鉄道用電気設備とシステム専門委員会) (以下、IEC/TC 9) では、活動を総括する総会を毎年行っています。鉄道国際規格センターが発足して、2回 (2011年福岡, 2018年東京) のIEC総会を開催しました。この2回の総会での審議内容の比較や開催などで経験した事柄について紹介します。



芳賀 昭弘
Akihiko Haga
鉄道国際規格センター
管理課長
[専門分野] 車両運動

IEC/TC 9とは

ISO (国際標準化機構) と並ぶ国際標準化機関であるIEC (国際電気標準会議) は、電気・電子分野の国際規格を策定するために、技術分野ごとに専門委員会 (TC, Technical Committee) を設けて作業をしています。TC 9「鉄道用電気設備とシステム」専門委員会は、IEC (1906年設立) において、1924年に設立された「路面電车用モータ諮問委員会 (Advisory Committee on Traction Motors)」より始まる長い歴史をもつTCです。現在は鉄道電気設備、および鉄道全体をシステムとして考えた規格作りを担当しており、表1に示す参加国で構成されています (2019年4月26日現在)。幹事国 (事務局の引き受け国) はフランスです。

TC 9総会とは

TC 9のすべての活動について管理・決定する全体会議が総会 (Plenary meeting) となります。この総会は、毎年秋に各国持ち回りで開催されています。TC 9総会開催には、単独で開催する場合とIEC全体総会開催に合わせて開催する場合があります。

TC 9総会の日本開催については、1965年の東京、1983年の東京、1999年の京都は、IEC全体総会との共催で開催されました。その後、2005年の東京については、初めてTC 9総会を単独で開催しました。

日本で総会開催を開催するメリットとして、日本のプレゼンスを発揮することや海外からの参加者が日本の鉄道を体感していただき、その良さの一端に触れる機会が作れることがあげられます。このため、数年に一度、日本での総会開催を心がけています。

第51回 IEC/TC 9総会 総会開催準備など

2010年に中国・長沙で開催された第50回年次総会において、2011年11月に開催する年次総会は東京と決まり、その当時の事務局では東京開催の会場の手配などを進めてきました。しかしながら、2011年3月に発生した東日本大震災に起因する福島原子力発電所の事故による海外参加者の不安に配慮して、東京から1,000km以上離れた福岡を示す図(図1)を用い、海外メンバーに説明し、福岡に開催地が変更となり

表1 TC 9参加国

Pメンバー		Oメンバー
オーストリア	イタリア	ブルガリア
ベルギー	日本	ブラジル
カナダ	北朝鮮	ベラルーシ
スイス	韓国	ギリシア
中国	ルクセンブルグ	クロアチア
チェコ	オランダ	ハンガリー
ドイツ	ノルウェー	インドネシア
デンマーク	ポルトガル	インド
エジプト	ルーマニア	ニュージーランド
スペイン	セルビア	ポーランド
フィンランド	ロシア	スロベニア
フランス	スウェーデン	タイ
イギリス	シンガポール	ウクライナ
イラン	南アフリカ	

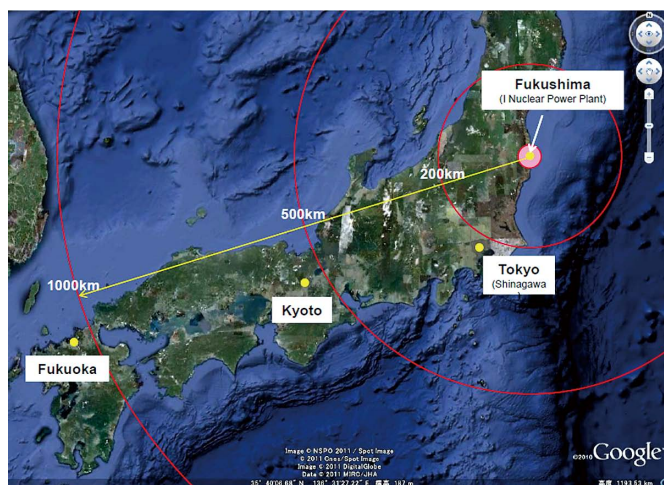


図1 福島から福岡までの距離



図2 第51回 IEC/TC 9総会

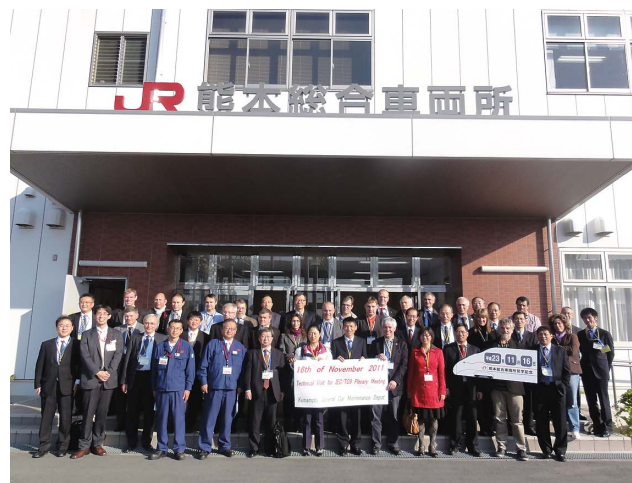


図3 第51回 IEC/TC 9総会テクニカルビジット (JR九州 熊本総合車両所にて)

ました。このため、事務局では11月開催に向けて大急ぎで会場確保、テクニカルビジット実施準備、推奨ホテルの選定、VISAの発給などを進めて本会議に間に合わせることができました。**総会参加者**

2011年11月11日～14日にかけてアクロス福岡で開催しました(図2)。会議には、議長1名(イタリア)、国際幹事および幹事補佐の2名(フランス)、IEC中央事務局1名のオフィサーメンバーと中国7名、ドイツ5名、フランス3名、イタリア3名、韓国3名、シンガポール2名、カナダ・イギリス・チェコ・ポルトガル・スウェーデン各1名、CENELEC(欧州電気標準化委員会)TC 9X:議長1名(イタリア)および日本10名 計42名が参加しました。

総会の主な議題

総会では、約60件の議題について審議が行われ、44件の決議が採択されました。そのうち、日本に関連する件名の決議は、日本が提案した「列車制御用無線の要求仕様決定手順」を新規のプロジェクトとして開始することなど3件ありました。この数年前から中国から新規規格の提案が多くなってきており、この時の総会では3件の新規提案が行われました。

関連行事

2005年に日本でTC 9総会を開催した時には、会議初日に開催するウェルカムパーティー、日本の鉄道システムを体感していただくテクニカルビジット、会議参加者と同伴者が出席するディナーパーティーを行ってきました。

この時も同様に関連行事を開催しました。テクニカルビジットでは、博多から九州新幹線に乗車して移動し、熊本総合車両所を見学しました(図3)。関連行事などを通じ、参加者は東京とは異なる街を楽しんだようでした。

「おもてなし」

事務局として、会議以外のことでいろいろなことを問い合わせられることが多くありました。日本のみやげに浴衣が欲しいので売っている店を紹介してほしい、粉ミルクを買いたいので店を紹介してほしい、京都へ行きたいので切符を手配してほしいなどなど、ネット検索や店に電話をかけたり、臨機応変に対応することが必要と感じました。また、折り紙をおって会場の受付にしていると(図4)、参加者からみやげ

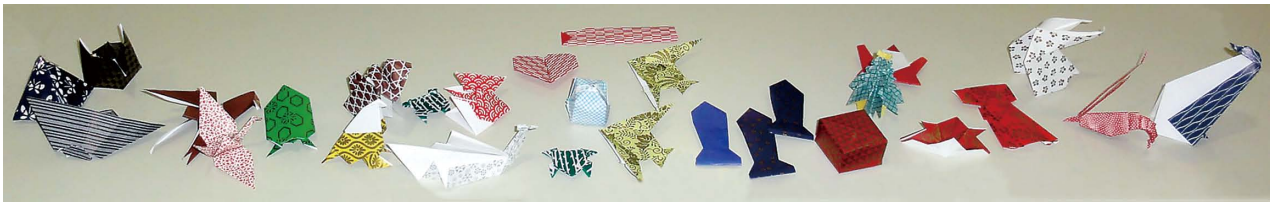


図4 折り紙



図5 第58回 IEC/TC 9総会



図6 第58回 IEC/TC 9総会テクニカルビジット
(鉄道総研 国立研究所にて)

に欲しいという話が多くありました。

第58回 IEC/TC 9総会

総会開催準備など

日本での総会開催は、おおよそ6年周期であるため、2017年初ごろから会場の選定などを始めました。第51回総会は原発事故の影響で東京開催ができなかったことからぜひ東京で開催したいと考えていました。2017年5月に開始されたCAG(議長諮問)会議で紹介し、2017年に開催されたウラジオストクで開催された第57回総会で第58回総会は東京と決議されました。

第51回総会の経験を踏まえ、事務局を2018年4月に発足し、事務局メンバーを中心に総会、パーティー、テクニカルビジット、VISA発給の手続

きを行いました。

総会参加者

2018年11月19日～22日にかけて過去には万世橋駅があったり、交通博物館であったり、鉄道にゆかりの場所であるステーションコンファレンス万世橋で開催しました。会議には、議長1名(イタリア)、国際幹事および幹事補佐の2名(フランス)、IEC中央事務局1名のオフィサーメンバーとオーストリア1名、中国5名、韓国5名、ドイツ4名、フランス2名、ロシア2名、インドネシア2名、イタリア・イギリス・チェコ・ルクセンブルク・スウェーデン各1名、日本21名の計51名が参加しました(図5)。

総会の主な議題

総会では、約120件の議題について

審議が行われ、40件の決議が採択されました。そのうち、日本に関連する件名の決議は、日本から提案した「交流電力補償装置」について新規のプロジェクトとして開始することのほか4件ありました

関連行事

会議初日に開催するウェルカムパーティー、鉄道総研国立研究所を見学するテクニカルビジット(図6)、会議参加者と同伴者が出席するディナーパーティーを行いました。

「おもてなし」

事務局として、会議以外のことでいろいろなことを問い合わせられることがありました。今回の総会時に多くあった件名としては、インターネット検索によって調べたしゃぶしゃぶ屋さ

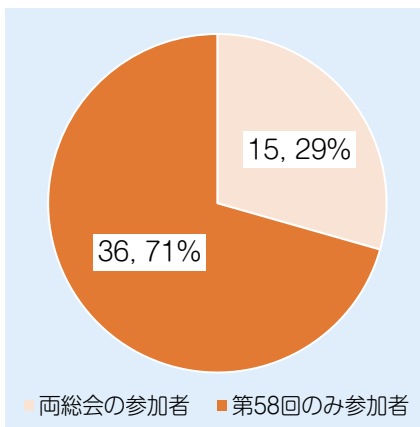


図7 総会参加者割合

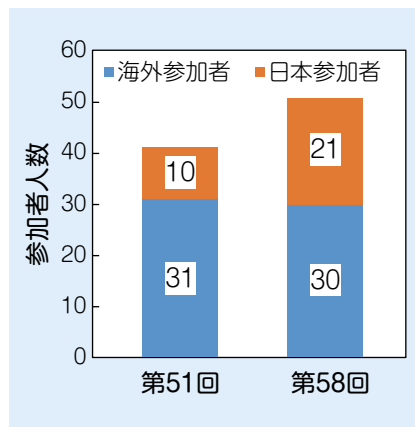


図8 総会参加者

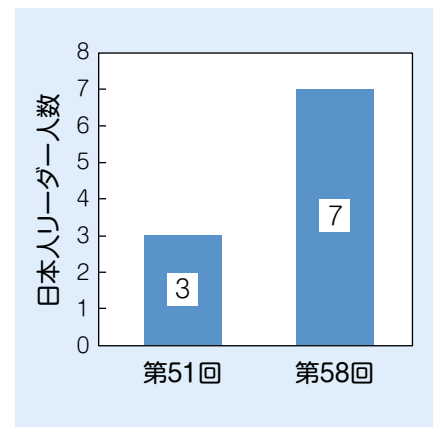


図9 日本人の規格審議を主導する人数

んを予約してほしいとドイツの参加者から話があり、電話予約を行いました。

第51回総会と第58回総会を比較して

会議参加者

第51回総会参加者と第58回総会参加者を比較すると、12か国から13か国に増えました。新たに参加する国もあるが、北米からの参加はなくなりました。TC 9への加盟をやめたアメリカについての動向が気になる点です。第51回および第58回両方に出席した者は15名おり、第58回総会参加者の約1/3のメンバーが7年以上継続してこの業務を続けていることとなります(図7)。換言するとこの業務は長く続けなければこのコミュニティで活躍できないことと考えられます。TC 9議長である Gianosvaldo Fadin氏は、20年以上TC 9の活動に貢献しています。日本でも同じように長年活躍できる人材の必要性を強く感じました。

日本開催の場合、日本人の総会参加は多くなりました(図8)。しかしながら、出席者のうちワーキングなどのリーダーとして活動報告した人が第51回総会では3人、第58回総会では7人となり、この7年間の間に倍増し、TC 9の活動に日本人が貢献していることがわかります(図9)。

ところで、事務局として、会議参加者への食事の提供は、大変気にする事

柄です。第58回総会の参加者は、日本食がとても人気がありました。ウェルカムパーティーで寿司職人が握る寿司スタンドの前に行列ができたり、和食、洋食、ベジタリアンの3種類の弁当を用意して、和食があつという間になくなったことなど、日本食の普及はこの7年間の変化であると思われました。

総会の議題の中から

第58回総会では、ドイツから補助回路バッテリー第5部リチウムイオン電池の新規規格提案がされました。通常、提案国が規格開発のリーダーとなることが通例ですが、ドイツからの提案では、この分野で多くの経験をもつ日本がリーダーとなって活動してほしいと発表がありました。第51回総会ではこのような提案はなく、この7年間で日本が貢献した結果からと考えられます。

「おもてなし」

一日中会議会場で会議をしている参加者が楽しみになることは、食事、コーヒープレークのお菓子になります。このため、先輩から食事などの手配については、楽しめて良いものを用意することがよいとあり、その教えは今回も踏襲しました。お茶菓子里にバームクーヘン、クッキー以外に日本のお菓子としてカステラやどら焼きを置いたところ、驚いたことにどら焼きが大変人気がありました。

第51回総会時には参加者から会議

以外での問い合わせがあったことを記載しましたが、第58回総会でもその場で臨機応変に対応することがありました。第51回総会の時と比べるとその内容は異なってきたと思いました。やはり、日本への訪問回数の増加やインターネットからの情報の収集などが考えられ、種々いろいろなことを調べて日本へ訪問しているようでした。このため、第51回総会で経験した店の問い合わせは少なく、インターネットで調査した店の予約の依頼などに変更となりました。ディナーの時チェコからの参加者と話した際に、日本茶が好きでインターネットで取り寄せているとか、日本の刃物に興味をもっている話がありました。次の日、話したチェコの参加者に合羽橋道具街に日本の刃物がたくさんあること、会場である秋葉原から合羽橋道具街に行くルートを教えたら、大変喜んでいました。このようにホストとして、総会参加者に良い日本の印象をもってもらうことも大切なことであると考えます。

おわりに

これら日本で総会を開催するにあたり、数多くの皆様にご協力をいただいたことをお礼申し上げます。

また、本稿が次回総会を開催する際に役に立ってくれることを期待します。

RRR